

同窓会の幹事を任された井上は、久しぶりに高校時代の友人に電話を入れた。

「はい、阿部です」

「夜分遅く恐れ入ります。井上と申しますが恵美さんいらっしゃいますか？」

「まだ仕事から帰ってこないんですけど・・・」

「あ、そうですか。私、恵美さんの高校時代の友人なんですけど、来月同窓会を開くことになりました、その連絡なんです」

「そうですね。それでは帰ってきましたら恵美の方からすぐお電話させます。すみませんが、お名前をもう一度お願いします」

「井上明子と申します」

「井上明子さんですね。そちらのお電話番号は、恵美は存じておりますか？」

「はい、ご存知だと思いますが一応申し上げます。八一―一八三一です」

「八一―一八三一ですね、わかりました。恵美は最近忙しいようで、帰りが遅い日が多いんです。あまり遅いようでしたら明日連絡させますね」

「すみません。あいにく明日は一日中外出していますので、できれば伝言をお願いしたいのですが」

「はい、どうぞ」

「来月二十一日の土曜日に、一時から麻布のイタリアンガーデンというレストランで同窓会を開くことになりましたので、その出欠を来週までに知らせてほしいと伝え下さい」

「来月二十一日の一時からですね。わかりました、伝えておきます」

「よろしくお願いします」

数日後、阿部から連絡が入った。

「はい、井上です」

「夜分恐れ入ります。阿部と申しますが、明子さんご在宅でしょうか？」

「恵美？ 久しぶり」

「本当、久しぶりね！ この前同窓会の連絡をくれたそうだけど、残念ながら二十一日は出席できそうにないの。最近忙しくて土曜日でも休日出勤なんだ。二十一日は昼過ぎには終わると思うんだけど、それから麻布まで行っても一時には間に合わないし・・・」

「もしよかったら、途中からでも出席できない？ みんな久しぶりに会えるのを楽しみにしているから」

「それじゃ・・・早く終わったら顔を出すようにしようかな。一応、レストランの住所と電話番号を教えてください」

「住所は東京都港区麻布台一―七―八、電話番号は〇三―三八五―一二四一、イタリアンガーデンというレストランなの。大通り沿いにあるから場所はすぐにわかると思うわ」

「わかった、ありがとう」

「それじゃ、当日楽しみにしてるから」

井上はそう言って電話を切り、まだ出欠のはっきりしない何人かに、再度確認の電話を入れた。